

伊丹公論

復刊
第14号
通巻33号

年4回発行
(次号は3月31日予定)

発行所
伊丹市立図書館ことば蔵
〒664-0895
伊丹市宮ノ前3-17-4
TEL 072-784-8170
編集
伊丹公論編集委員会

「私たちのラジオ」めざし着々

エフエムいたみが年 開局20周年



伊丹市のコミュニティFM局「エフエムいたみ」が今年12月21日で開局20周年を迎える。阪神・淡路大震災をきっかけに、災害時の迅速な情報伝達手段の役割を期待されて開局した放送局であり、普段から放送が市民に親しまれていることが至上命題。このため、市民スタッフを多用するなど地域密着の放送局を目指し奮闘を続けている。

◆震災を教訓に開局 平成7年(1995)1月17日、阪神・淡路大震災が発生し、伊丹市にも未曾有の被害をもたらした。今のように携帯電話が普及しておらず、広報車による巡回や避難所での掲示、「広報伊丹」の配布などによって、市からの情報を伝達していた。しかし、これだけでは市民に必要な情報をいち早く伝えることはできなかった。

この教訓を踏まえ、伊丹市は同年初にコミュニティ放送局の設立を発表。翌平成8年8月30日、民間企業等の出資を得て第3セクターの伊丹コミュニティ放送(株)(エフエム)



伊丹市総合防災訓練を中継するリポーター=猪名川河川敷で

ムいたみ)が発足、代表取締役社長に小西新太郎氏(小西酒造(株)代表取締役社長)を選出した。そして同年12月21日、中央1丁目のグラウンドハウス2階のスタジオから、全国で52番目のコミュニティ放送局として放送を開始。その後、平成13年4月に完成した伊丹商工プラザ(宮ノ前2)の1階に移転した。



市内高校放送部員が出演する「いたみ青春放送局」

の募集も予定している。開局当初から携わる市民スタッフの平野美穂さん(58)は「おしゃべり好きの主婦だった私が、ラジオのパーソナリティを務めることになって、色んな人と出会い伊丹の歴史や自然のすばらしさを知ることができた。伊丹が大好きな人は、ぜひ市民スタッフに応募してもらいたい」と話している。

また、若いリスナーを増やすため、市内の高校の放送部員がパーソナリティを務める生放送番組「いたみ青春放送局」を平成25年から開始。番組内容は生徒たちが自由な発想で企画し、各校の歴史や校歌、文化祭などの学校行事を紹介している。リスナーからの反響も大きく、翌年からレギュラー化し、地元ラジオ局ならではの取り組みを続けている。

◆全国初の情報発信システムも 震災から20年の節目となる昨年1月、エフエムいたみが中心となって、震災を機に設立した阪神間の地域FM4局による合同特別番組を放送した。受信地域が限定されたFM局同士が共同番組を一齐放送するのは、近畿で初めての試み。被災者らへのインタビューなどで当時は振り返りながら、地域防災活動や今後の備えについて放送した。

平成20年には、災害時の要援護者支援施策として、伊丹市と共同で「緊急告知FMラジオ」Ⅱ写真Ⅱの運用を開始。現在、独居高齢者や市内の学校園、医療・福祉施設等を中心に約2千台が配備されている。また、デジタルサイネージを活用した「まちかど電子情報提供システム」(愛称いたみえくる)を全国のコミュニティ放送局として初めて開局した。

Library of the Year 大賞受賞

「創造的な活動を市民と共に実践」



表彰状を受け取る交流フロア運営会議メンバーら

先進的な活動を行う図書館などを表彰する「ライブラリー・オブ・ザ・イヤ」の最終選考会が11月9日に横浜市で開かれ、県内で初めて「ことば蔵」が大賞に選ばれた。同賞は平成18年(2006)、学識経験者らでつくるNPO法人「知的資源イニシアティブ」(東京都)が創設。全国3千を超える公立図書館のほか、大学図書館、図書館関連のプロジェクトなどから4

ことば蔵では、「公園のような図書館」をコンセプトに、市民が自由に話し合える「交流フロア運営会議」を毎月第1水曜に開催。市民のアイデアを取り入れることで年間200回を超えるイベントを開催し、誰もが気軽に訪れる図書館づくりを進めた。開館当初から運営会議に参加している伊丹市宮ノ前の多賀谷学さん(76)は「スタートした4年前とはメンバーも進め方もいぶん変わりましたが、参加して楽しい雰囲気はますますアップしている。ちよつとした市民のアイデアが素晴らしい企画に变身できます。まずは気軽に参加してもらいたい」と話す。

10年後の自分へのメッセージを収録

ことば蔵は、エフエムいたみ開局20周年を記念、未来の自分へ送るメッセージの音声収録し、10年後に同局で放送するイベント「ことばのタイムカプセル」を12月11日(日)午後1時に開催します。また、10年後の本人に出演依頼し、感想などを放送する予定です。参加無料で先着20人。小学4年生〜中学3年生が対象。申し込みはことば蔵へ。

発し、平成23年に導入した。人通りの多い駅など市内38カ所に大型モニターを設置。震度4以上の地震発生時や、避難勧告・指示が出る豪雨の際などに、パーソナリティが避難を呼びかける。本庄和郎放送局長(69)は「これからも災害・緊急放送への備えを軸としながら、全市民に一度は出演してもらい、『私たちのラジオ局』と想ってもらえるような地域に密着した放送を続けたい」と話している。番組へのリクエスト・メッセージはファクス072-785-4161へ。

「郷土研究伊丹公論」は、私立伊丹図書館を開設した小林杖吉(筆名「丹城」)が、昭和11年(1936)1月20日に創刊し、19号まで発行された地域紙。ことば蔵では、伊丹公論を73年ぶりに復刊し、伊丹の歴史・文化を全国に発信するため、市民と共に発行しています。

骨壺がぬれると荒木の文字 興宗寺と岩佐又兵衛展の福井へ

郷土史
こぼれ話
14



「荒木」の文字が浮き出た骨壺

戦国武将、荒木村重の遺児とされる浮世絵師、岩佐又兵衛勝以(1578~1650)の作品「洛中洛外図屏風(舟木本)」について国宝指定に向け文科相に答申がなされたことを本紙復刊第12号でお伝え

したが、この8月に晴れて指定された。何という快挙だろう。才能は越前福井で大きく開花し、その奔放な画風から「異端の絵師」といわれた。風俗と高尚、その両方を画布に叩きつけた。出自ゆえ「怨念の絵師」の異名も。その国宝を含めた岩佐又兵衛展が福井県立美術館で開催された。私たちの荒木村重研究会は8月26日、胸をわくわくさせて福井市を訪ねた。観覧の前に、どうしてもお参りしたい場所があった。又兵衛の菩提寺・興宗寺である。北條絃文前住職の説明は驚くべきものであった。お墓の移転の際に骨壺を洗うと、表面に荒木の

文字が浮き出た。乾くと自然に消えた。出自を残しておきたかった福井の又兵衛。様々なゆかりの品々を拝見し、去るのが惜しかった。そして美術館へ向かった。展覧会の作品群は、又兵衛の生涯を網羅する贅沢な40点。こままでよくぞ集めたと目を奪われた。注目は国宝となった6曲1双の「洛中洛外図屏風」。画題の洛中洛外とは、政治文化の中心地・京の市中と東山から下京あたりを指す。描かれた時期は、豊臣期から江戸幕府へ移行するころ。

その景観とともに都の人々の暮らし、賑わいぶりが又兵衛独特の筆致で見事に描かれていた。登場人物は、貴人、武士、商人から庶民の大

人子供老若男女に南蛮の宣教師など描きに描いたり2千728人。ものを食べる、酒を飲む、橋の上で踊る、芝居を観る、ナンバする…。皆エネルギーで、笑い声や嬌声が絵からはみ出ている。平和を謳歌している。この戦争のない平和こそ又兵衛の主題なのだ。この願いは今にも通じる人類の永遠の願いに他ならない。絵の前では多くの人がオペラグラスを手じじつと見入っていた。短時間であったが、作品に圧倒され酔った。来年1月22日、ことば蔵で2回目となる「浮世絵師・又兵衛まつり」を開き、広く紹介したいと考えている。読者のみなさんのご参加をお待ちしています。

（郷土史研究者 森本啓一）



このようなツツジを古墳全体に広げる計画だ＝今春、御願塚古墳頂部で



ツツジを植樹する会員ら

同保存会の結成は、御願塚古墳が県の史跡に指定された翌年の昭和42年(1967)。地元の貴重な文化財を守っていきたくて、住民の強い思いからだった。会員は現在約320人、近隣自治会と企業7社。主に古墳の清掃・剪定

や広報・研修活動のほか、小学生向けの見学会や講座などを実施している。御願塚古墳は古墳時代中期(5世

紀後半)に造られた帆立貝式古墳。かつてこの古墳と他の4基の古墳を合わせて「五ヶ塚」と呼ばれていたのが「御願塚」になったとの伝承が

ある。また、明治時代にはキリシマツツジの名所として有名で、市の花にツツジが選ばれた理由の一つでもある。だが現在は、古墳頂部の杜周辺に100本ほど残るだけとなっている。

そこで今回、数年前から、挿し木から苗木を育てていた同保存会が、結成50年を機に、古墳に「ツツジの名所」を復活させようと今年2月にプロジェクトチームを結成、苗木は約150本を準備した。5月上旬には会員から「里親」を募集、現在は約30人が育てている。

「天下のイタミ分け！」

タイトルだけグランプリ最高賞に和田さん



帯ワンの受賞作品を手を喜ぶ松田さん

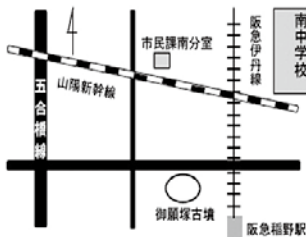
ことば蔵はこのほど、架空の本のタイトルの出来栄を競う「第2回タイトルだけグランプリ」の最高賞(田辺聖子名誉館長賞)に名古屋市の主婦、和田千恵美さん(61)の作品を選んだ。

11月6日にことば蔵で各賞の表彰セレモニーが行われ、最高賞の和田さんは「伊丹を東西に分けた境界線が、世紀の大発見となる恐竜の化石が出土し、それが東西どちらの地域のものか住民の間で大論争に…というストーリーを考えて作った」と話していた。一方、帯ワングランプリ伊丹本屋大賞受賞者の一人、松田さん(68)の作品を選んだ。

帯ワングランプリ入賞に松田さんら

(61)の「天下のイタミ分け！」伊丹市を二分する大問題が今ここに勃発！」を選んだ。また、自作本の帯の出来栄を競う「第4回帯ワングランプリ」の伊丹本屋大賞に伊丹市の東中学校1年、松田薫さん(13)、伊丹市のパート、土井富恵さん(39)、大阪市東淀川区のパート、森順子さん(68)の作品を選んだ。

「絵をかくのが得意なので、がんばって作った。賞に選ばれてすごく嬉しい」とにっこり。両グランプリの募集は6月1日から9月4日まで行い、「タイトルだけグランプリ」には市内外から計966点、帯ワングランプリには計227点の応募があった。他の入賞者と作品は次のとおり。



市バス「御願塚」下車すぐ



同保存会の活動内容はフェイスブック(下QRコードから読み取り可)をご覧ください。

この印刷物は5000部作成し、印刷経費は1部あたり19円です。

写真協力：西田写真館



子どもたちの未来のために

兵庫県地球温暖化防止活動推進員

後藤 昌弘さん (80)

35歳のとき、公害対策が重要課題となっていた尼崎市の職員に転身、公害監視センター1所長に就任した。平成7年(1995)に定年退職、再就職した外郭団体を平成13年に退職すると、「県地球温暖化防止活動推進員」の第1期生に応募。以来、途切れることなく推進員を務め、阪神北地域連絡会代表、伊丹市域

連絡会代表を今日まで続けている。後藤さんが力を入れているのが子どもたちへの啓発。ことば蔵でも手回し発電機を作って発電しミニカーを走らせる「ワンコインエコ工作教室」を企画、実施した。車を走らせるには、どのほどエネルギーがいるのか知ってもらうためだ。また、DIYアドバイザー(日曜大工指導者)として「親子で本立て作り」にも参加し協力。来月2月には、まだ遊べるおもちゃを直す「おもちゃ病院」などの開催に尽力する。自らエネルギーを使わなくても、外部からの力で何でもできる時代だが、そこには莫大な動力が過剰までに生産され、たくさんCO₂が排出されている。子どもたちの未来の地球が心配だ。後藤さんは「環境問題は、やはり小さいころからの教育が大事。CO₂削減に向けて、これからは取り組んでいきたい」と張り切っている。(細尾哲也)

退職後の第二の人生で県地球温暖化防止活動推進員を15年以上務める。自転車発電で走るミニカーを自作するなど子どもたちにわかりやすくエネルギーの大切さを訴える

活動を続け、5年前には環境省の「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受けた。昭和29年(1954)、西宮市の高校を卒業後、翌

現代人物風景

伊丹の写真から6つの短編物語



演技指導するごまのはえさん(写真右)

伊丹で撮影された写真を市民から募集し、これを一つの演劇にして上演するプロジェクトがアイホールによって進められている。今年3年計画の2年目で「写真と演劇」をテーマに、大阪府博や阪神・淡路大震災などにまつわる6つの物語を芝居に合わせて写真撮影しながら演じる舞台が10月14日

16日にアイホールで上演された。昨年は「あなたにとって一番古い伊丹」をテーマに写真を公募。今年3月、ことば蔵などで写真展と写真を寄せた人らによる茶話会を開催した。そこで出会った様々な人から聞いたエピソードをもとに、劇作家のごまのはえさん(39)がシナリオを書き、6つのショートストーリーが生まれた。公演では、それぞれの思い出がまった写真が背景としてスクリーンに映し出され、そこで7人の役者が写真に合わせて演じた役者による生演奏や笑いもあり、写真と演劇が調和したパフォーマンスを展開した。ごまのはえさんは「ひとつひとつの写真が、その人自身の歴史なので、フィクションを入れすぎず、個人的な色合いを損なわないように、みんなのものになるよう仕上げていくのが難しかった」と話していた。

今回上演された物語は「昆陽池から来たへび」「国道17号線を行く象」「天神川ホエールの補欠たち」「崩れた灯籠、瓦礫の境内」「カエルの居場所～震災後の街並み」「尼宝線と防空壕とチューインガム」の6本。来月は象の話をメインに一本の芝居として完成させる予定だ。同プロジェクトを企画しているアイホールの香井亜希子さん(37)は「3年目伊丹の地名が登場するなど地元の方にとって共感してもらえる作品に仕上がるはず。ぜひ、家族や友人と一緒に見てほしい」と呼びかけている。公演は、来年9月8日～10日の予定。プロジェクトの集大成を観にぜひアイホールへ足を運んでもらいたい。(龍田起代子)

来秋、劇化して上演

老舗探訪

阪神スポーツ

伊丹市西台3丁目9-17
☎072-772-2802



創業は昭和41年(1966)。当時の庶民は生活の安定が第一であり、スポーツに興じたり、観戦する余裕も余りなかったが、社長の田村滋さん(80)「写真」は、今後はスポーツ用品の販売を始めた。(辻野文三)

店名は、学友で親友の村山実・元阪神タイガース投手の強い勧めで、迷うことなく「阪神スポーツ」とした。「スポーツでより明るく、健康に」が店のモットーだ。開店から20年くらいの間は伊丹

でもスキー愛好者が多く、信州方面、兵庫県鉢伏高原などへのバスのチャーターに大忙しだった。それに伴いスキー用品の販売もかなりのウェイトを占めていた。現在は、リオ五輪メダリストなどの一流選手を担当するラケットの「張人」がテニス、バドミントンのガットを客の求めに応じて張り替えるなど、同業他店にはない特色を持ち張っている。(辻野文三)



阪急伊丹駅前改札前にあるコンビニ「アズナス」伊丹店に、伊丹の物産コーナーが出来ていることを存じだるうか。入り口近くのわかりやすい場所にあり、伊丹市マスコット「たみまる」のパネルが目印となっている。地元物産を扱うのは、59カ所あるアズナスの中では初めての試みで、今年7月6日に誕生。伊丹店をリニューアルするに際し、伊丹にはお土産として扱える商品が多く存在することに目を付け、この企画を考えたという。「一つ二つ置いたのでは意味がない。棚をいくつか使って、お客さんにはつきり分かる陳列にしたい」と思いました」と店長の柴田英男さん(38)「写真」。現在、物産コーナーで扱っている商品は24点。伊丹市観光物産協会から仕入れられている。売れ行き1位は、(株)三喜屋の「ソースのおせんべい(伊丹地ソース味)」(1袋378円)、2位は白雪食品(株)の「き

アズナス伊丹店
伊丹市西台1丁目1 リータ3階
☎072-777-2453 (丸晴子)

郷土産品紹介
アズナス伊丹店に地元物産コーナー
「アズナス」伊丹店に、伊丹の物産コーナーが出来ていることを存じだるうか。入り口近くのわかりやすい場所にあり、伊丹市マスコット「たみまる」のパネルが目印となっている。地元物産を扱うのは、59カ所あるアズナスの中では初めての試みで、今年7月6日に誕生。伊丹店をリニューアルするに際し、伊丹にはお土産として扱える商品が多く存在することに目を付け、この企画を考えたという。「一つ二つ置いたのでは意味がない。棚をいくつか使って、お客さんにはつきり分かる陳列にしたい」と思いました」と店長の柴田英男さん(38)「写真」。現在、物産コーナーで扱っている商品は24点。伊丹市観光物産協会から仕入れられている。売れ行き1位は、(株)三喜屋の「ソースのおせんべい(伊丹地ソース味)」(1袋378円)、2位は白雪食品(株)の「きざみ奈良漬」(378円)、3位は茶道香島園の「抹茶のクッキー」(円満)(367円)だ。ソースのおせんべいは、国産うるち米の生地に伊丹の地ソースを染み込ませ唐辛子を効かせたもので、ビールのおつまみにぴったり。ほぼ毎日売れているほどの人気で、出張で伊丹に来た帰りに、お土産として10袋ほど買って行った人もあったそうだ。きざみ奈良漬は、食べきりサイズで小分けになっており、お酒と一緒に購入する男性客が多い。阪急伊丹駅ビルには、JR伊丹駅改札横にあるような観光案内所がないが、この店はイトインコーナーで市の観光資料や散策マップなどを提供。改札前という立地を生かし、観光案内にも一役買っている。伊丹の魅力ある商品や観光情報が阪急電車に乗ってどんどん広がっていくことを期待したい。

伊丹俳壇

「虫」坪内稔典 選
(佛教大学・京都教育大学名誉教授、
柿衛文庫也雲軒塾頭)

最優秀賞

モーロクの書齋はカフェちんちろりん
平 きみえ (伊丹市)

いいモーロクぶり。もつともカフェを書齋にして俳句を作った
り読書しているのだから、実際はモーロクの寸前か。ともあれ
ちんちろりん(松虫)に耳を傾けながらゆっくりとモーロクして
ください。

優秀賞

相棒の右京の影が昼の虫 諸富 千歳 (伊丹市)
郷町に虫の故郷連れ 藤田 勇 (伊丹市)
畦道に夫と休めば昼の虫 小松 房子 (伊丹市)
玉虫の母にぶつかると石舞台 堀ノ内和夫 (奈良市)
はがらかにこおろぎが鳴く犀川よ 戸田 なお (金沢市)

伊丹歌壇

「虫」尾崎まゆみ 選
(玲瓏) 選者 神戸新聞文芸短歌選者
現代歌人協会会員

最優秀賞

蜻蛉の群れなす野辺に振りかへる君よりゆらと透ける少年
松城 ゆき (滋賀県草津市)

野原を陽炎のようにゆらと群れ飛ぶトンボを背景に、君が
振り返ると、輪郭も揺れて曖昧、中の少年が透けて見える。
飛ぶさまが陽炎に似ているからトンボを蜻蛉と呼ぶ。言葉の
使い方と、「ゆらと透ける」のリアルが魅力。

優秀賞

Tシャツの背中を虫が這うけれどわたしはわたしを助けられない
岡野はるみ(大阪府泉南郡岬町)

コンビニの誘蛾灯へと近寄りし虫に緊急指令を発す
小田 虎賢 (明石市)

食べたことなきピクルスも淀みなくはらへこあおむし読み上げる吾子
小野 史 (東京都足立区)

虫の息弱さの比喩とはこれ如何に斯くも力の漲る者を
石山 哲也 (埼玉県蕨市)

琥珀中に閉ざさる虫の目となりてみつめておりぬ朝の日照雨を
瀬戸内 光 (山口県光市)

次回の兼題は、俳壇は「鴨」、歌壇は「贈り物」とします。応募は1人各1作品、自作未発表作品に限る。応募締切は、来年1月15日(必着)。最優秀賞には図書券千円進呈。左のQRコードを利用すると、ケータイからも応募できる。問い合わせは、ことば蔵へ。

住電陸上部から初の五輪

男子1600リレーの田村朋也選手

本市に拠点を置く住友電工陸上競技部が創部以来初めて、オリンピックに選手を送り出す快挙を今夏のリオデジャネイロ五輪でなし遂げた。この選手は陸上男子1600リレー日本代表に内定した。

愛知県出身の田村選手は中学から陸上競技を始め、中京大を経て昨年4月、実業団の強豪チーム、住友電工陸上競技部に加入した。入部1年目は、環境の変化などで苦労したが、同社のサポートや世界レベルの選手と一緒に質の高い練習をすることができ、めきめきと実力をつけた。昨年8月の北京世界陸上

男子1600リレーに日本代表として出場。今年6月の日本陸上競技選手権大会では男子400リレーで4位に入賞し、リオ五輪1600リレーの日本代表に内定した。この種目で日本は五輪出場の権利を獲得できる16番目までに入れたが、組織的なドーピングを理由にロシアが出場できなくなったため、17番目で「補欠」1番手だった日本が繰り上がり出場権を獲得した。昭和3年(1928)創部の同社陸上部からは初の五輪選手となる快挙。田村選手は「普段の日本では味わえない最高の舞台で走れることにワクワクし通した」という。

そして、8月19日(日本時間20日)にリオで行われた五輪予選1組で、田村選手は第2走で健闘。しかし、日本は3分2秒95で7着、全体で13位となり、決勝進出を逃した。田村選手は「レース本番は緊張して一瞬で終わってしまった。普通の試合とは違う独特な雰囲気。これがオリンピックなのかと感じた。ただひたすら悔しかった。今後に向けては「日本選手権で優勝し、個人種目400リレーで世界の舞台に立つのが目標。オリンピックでの悔しさはオリンピックでしか返せない。4年後の東京オリンピックでリベンジしたい」と言い切った。

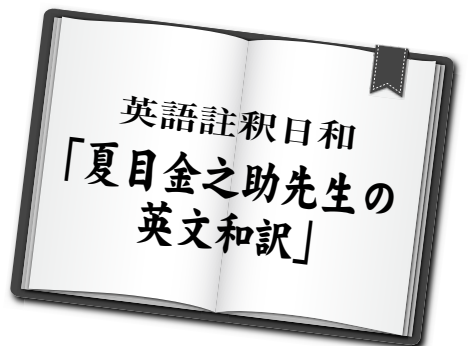


小中学生陸上教室で指導する田村選手
10月16日、住友総合グラウンドで

タンジョー先生 はやしやよい



林やよい
伊丹市在住。毎日新聞兵庫版にイラストエッセイ「くるまいますまいる」を連載中。



夏目漱石(本名…金之助)(1867~1916)はイギリス留学から帰国後、東京帝国大学で「18世紀英文学」と題して明治38年(1905)9月から同40年3月まで行った講義(週3時間)の内容をまとめ、「文学評論」として明治42年に出版しました。今日では、講談社学術文庫や岩波文庫で読めます。この「文学評論」には、当時のイギリスの諸文献からの英文引用がかなりあり、ご自分で和訳もされています。その中から、いくつかピックアップして夏目先生に英語を教えてもらいましょう。

英文①: Yet we must not exaggerate.
夏目先生和訳: しかしむやみに言いつぎると弊が出る。
英文②: Society was one vast casino.
夏目先生和訳: 社会全体が一大賭博場の観をなしていた。
英文③: Jokes and bon mots are echoed from box to box; 以下略
夏目先生和訳: 諧謔が百出する、機智を弄し合う。席から席、座から座へと響き渡る。

演註釈: 英文①は、直訳しますと、「しかし、我々は誇張してはいけない」となり、「誇張する」むやみに言いつぎる／＼してはいけない↓弊が出る」という関係がみられます。
英文②の直訳は、「社会全体が一つの大きなカジノだった」で、最後のところを「の観をなしていた」と締めくくっています。英文③については、bon mots はフランス語で、英語では good words (よい言葉・名言) に相当します。直訳は「冗談や名言が、ボックス席のあちこちから反響する」くらいでしょうか。
これら3例から分かることは、英文の言わんとすることが日本語になりきっている、つまり「日本語として自立している」ということです。根底には、「漢文の素養」「英語英文学の教養」「文学的才能」があると思われれます。また、「翻訳を楽しむ余裕」も感じられます。漱石没後100年、まだまだ「碩学の教え」は新鮮で多彩です。(瀧昌央)



眠って過ごして熟成を深め、秋の到来とともに目覚める「ひやおろし」。豊穣の秋にふさわしい、穏やかで落ち着いた香り、滑らかな口あたり、濃密なところが魅力のお酒である。秋は、やはり秋の酒を味わいたい。さあ、今日も豊作を祝い「ひやおろし」で一献傾けよう。

「アイデアソン」という言葉を存じだろるか。アイデアとマラソンを組み合わせた造語で、数時間数日間ぐらいでマラソンを走るように集中してアイデアを出し合う催しだ。短期間でアイデアをブラッシュアップしていく手法として、最近注目されている。また、このアイデアソンをアレン



(ときわ喜多)